

2019年11月11日

あおぞら投信株式会社

「誰よりも 練習したと 言い切って 立ち上がる壁 スクラムで破る」

南アフリカのタッチキック*1で決勝戦の試合終了のホイッスルが吹かれると、身体の力が抜けるのを感じました。44日間の祭典が終わり、今もっとも感じるのはスポーツの持つ力かもしれません。1995年に南アフリカが初優勝した時、故マンデラ大統領が、スポーツには「世界を変える力」、「刺激する力」、「人々を結びつける力」があると仰いました。それらはまさにラグビーが具現化したことなのです。

今回の日本代表が掲げた『ワンチーム』の意味も、そして応援する人々に力を与えた理由もここにあるのだと思います。日本代表のリーチ・マイケル選手がキャプテンとして日本チームの多様性をまとめたように、南アフリカ代表のシャ・コリシ選手のキャプテンシー*2が、レインボー・ネーションと呼ばれる多様な民族をまとめたのです。自分の力には限界がある中で、目の前の立ち上がる壁に挑戦すること、そして挑戦することからの挫折とそこから再挑戦の繰り返し、といった人の持っている力を振り絞る姿こそが、今回のラグビーワールドカップで選手たちが我々に残してくれたことなのです。そしてもう一つは、世界の人々の記憶に、日本という国の良さ(おもてなし精神)を残せたことです。試合の度にいろいろな人と話をしましたが、多くの人が初めての来日でした。そして、このような運営に関わる人々、あるいは街で会う人々すべてが、日本は本当に素晴らしい、と口を揃えてコメントしてくれました。今大会を通じて、我々日本人自身が分からなかった日本の魅力を海外から訪れた人たちによって再認識したり、我々日本人も世界の中にも数多くの知らなかった魅力を持つ国々があることを再発見しました。そしてラグビーボールが、人と人とのぶつかり合いをさせながら、これからの時代にどのような変化と繋がりをもちたいか、ということを一ひとりひとりが問いかけられ、すなわち『One for All, All for One』の精神に心を揺さぶられたのではないのでしょうか。

*1:ラグビーで、ボールをサイドラインの外に出すことを狙って蹴るキック。

*2:キャプテンとしてチームを統率する力。指導力。

柳谷俊郎

歴代ラグビーワールドカップの成績上位国と日本の戦績

開催年	開催国	優勝国	準優勝国	第3位	第4位	日本の成績
1987年 (第1回)	オーストラリア ニュージーランド	ニュージーランド	フランス	ウェールズ	オーストラリア	予選プール4位敗退
1991年 (第2回)	イングランド、フランス ウェールズ、スコットランド アイルランド	オーストラリア	イングランド	ニュージーランド	スコットランド	予選プール3位敗退
1995年 (第3回)	南アフリカ共和国	南アフリカ共和国	ニュージーランド	フランス	イングランド	予選プール4位敗退
1999年 (第4回)	ウェールズ	オーストラリア	フランス	南アフリカ共和国	ニュージーランド	予選プール4位敗退
2003年 (第5回)	オーストラリア	イングランド	オーストラリア	ニュージーランド	フランス	予選プール4位敗退
2007年 (第6回)	フランス	南アフリカ共和国	イングランド	アルゼンチン	フランス	予選プール3位敗退
2011年 (第7回)	ニュージーランド	ニュージーランド	フランス	オーストラリア	ウェールズ	予選プール4位敗退
2015年 (第8回)	イングランド	ニュージーランド	オーストラリア	南アフリカ共和国	アルゼンチン	予選プール3位敗退
2019年 (第9回)	日本	南アフリカ共和国	イングランド	ニュージーランド	ウェールズ	ベスト8

出所：各種情報を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>